

「鷹」
・ 仙台市博物館 学芸普及室長 菅野 正道

都市で見られる鷹の仲間

木々の緑が少しずつ濃くなるこの時期、山では鷹が巣を作り、卵を産んで子育てを始めます。鷹や鷲という、普通に姿を見ることができるといわれると、奥深い山に生息しているように思われがちですが、人里近くでもその姿を見ることが少なくないのです。

例えば仙台付近では、オオタカやハヤブサの姿を普通に見ることができると言えます。オオタカは青葉山で繁殖していることが知られていますが、そのほかにも東日本大震災で大部分が流されたしまった海岸沿いの防潮林で巣を作っていたことが確認されています。また、ハヤブサ、チョウゲンボウといった鷹の仲間、青葉山や広瀬川沿いでしばしば目撃



青葉区花壇付近の広瀬川河原で獲物の鳥を捕えたハヤブサ (平成27年4月 阿部さやか撮影)

されています。

鷹は食物連鎖の頂点に位置する動物です。鷹が多く住んでいるということは、自然が豊かで、鷹の餌となる鳥や小動物が多いということも意味しています。全国有数の大都市・仙台は、豊かな自然を身近に抱えていることを鷹たちは教えてくれているのです。

鷹狩

人と鷹の関わりということでは、鷹狩が最大のものと言えるでしょう。訓練した鷹にウサギなどの小動物や鳥を取らせる鷹狩は、紀元前2千〜3千年ころに中央アジアで始まり、その後、世界中に広まりました。

日本でも鷹狩は古墳時代には行われていたことが、埴輪などから確認でき、古代には天皇や公家の間で盛んに行われていたとされています。その後、中世に入ると鷹狩は武士の間に急速に広まっていきます。さらに江戸時代には、公家の鷹狩は幕府によって禁じられ、鷹狩は将軍・大名やその重臣などの上級武士のみ許された特権となっていました。

歴代の仙台藩主の多くは鷹狩を大変に好んでおり、そのために鷹が数多く日常的に飼育されていました。鷹を訓練する鷹匠や、鷹に食べさせる餌を調達する「餌刺」と称される家臣も多数召し抱えられていました。寛文十(一六七〇)年時点でその数は、鷹匠二五二人、

餌刺衆一二人に達していました。

彼ら鷹匠や餌刺が育てていたのは、藩主用の鷹だけではありませんでした。戦国時代以前から、武家の間ではすぐれた鷹は高級な贈り物として珍重されました。そのため、すぐれた鷹が育つと、仙台藩ではこれを将軍に献上していました。伊達政宗も豊臣秀吉に、政宗の父・輝宗は織田信長に、それぞれ鷹を贈っています。なかでも秀吉に贈られた鷹は「鶴取」と言つて、大きな鶴を取れるほどの力と技を持った逸品だったので。

鷹の名産地

仙台藩で飼われていた鷹は、どうやって調達されたのでしょうか。実は仙台藩領であった地域の山間には「罫」または「鳥屋」という文字が付く地名をしばしば見ることができま

す。この「罫」というのは、実は鷹の幼鳥を捕獲できる場所を指したのです。「罫」地名が多く残っていることは、それだけ鷹が多く生息していたという証拠になるのです。

現在の仙台市域も「大罫」(太白区大罫町)の地名が残るように、あちこちで鷹が生息していました。戦国時代に伊達氏の家臣が主に鷹を献上する記録が幾つも見られますが、その多くは、現仙台市域を本拠としていた留守氏や国分氏、茂庭氏が伊達氏に鷹を献上するといふものでした。

北陸の戦国大名・朝倉氏が定めた法令には「伊達氏の所へ使者を出して良い馬や鷹を求めてはならない」という条文があります。伊達領の鷹は全国の武士たち垂涎の高級ブランド品だったので。そして、その伊達ブランドの鷹の主体が、現仙台市域周辺で生を受けた鷹であったことは、間違いなさそうです。

国宝・薬師寺の名宝、仙台限定特別公開。

東日本大震災復興祈念特別展

国宝 吉祥天女が舞い降りた! -奈良 薬師寺 未来への祈り-

2015年4/24(金)~6/21(日)

【観覧料】一般:1,300円 大学・高校生:1,000円 小・中学生:600円

※この他、各種割引があります。詳細は博物館までお問い合わせください。

開館時間:午前9時~午後4時45分(最終入館午後4時15分)

休館日:月曜日、5月7日(木) ※4月27日、5月4日は開館

■主催:「奈良 薬師寺 未来への祈り」実行委員会(仙台市博物館、NHK仙台放送局、NHKプラネット東北)、法相宗大本山薬師寺、河北新報社

仙台市博物館 TEL:022-225-3074
SENDAI CITY MUSEUM http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/



国宝 吉祥天女像(部分) 薬師寺蔵 撮影:飛鳥園



国宝 聖観世音菩薩立像 薬師寺蔵 撮影:飛鳥園